

令和5年度 第1回 学校運営協議会

1 日 時 令和5年6月14日(水) 15時30分～17時

2 場 所 本校GU教室

3 出席者(運営協議会委員)

松宮 新吾(追手門学院大学教授)

河原林 昌樹(弁護士)

三村 泰久(門真市立脇田小学校長)

高山 拓也(門真市教育委員会学校教育課長)

三戸 治歩(本校PTA会長)

増田 広樹(門真市立第二中学校長 欠席)

4 出席者(学校)

校長、教頭、首席、各分掌、各学年

5 議題等(次第順)

【審議事項】

(1) 令和5年度学校経営計画及び学校評価【承認】

(2) その他

【報告事項】

(1) スクール・ミッション、スクール・ポリシーについて

(2) 教科書の採択について

(3) 各学年・分掌より

(4) その他

6 意見・質問事項等(概要)

○ICTの効果的な活用について

- ・タブレットは積極的に使うようになっているが、スマホの利用時間も長くなっていて、ICTについては使い方を考えなければならない。
- ・チャレンジテストのアンケートによると、スマホの利用時間について1日3時間以上が50%以上あり、時間の使い方を考えなければならない。
- ・門真市では、デジタルドリル、AIドリルを活用している。一斉授業からその個人にあった授業、一人1台端末も筆記用具と同じような感覚で使えるように、良い活用事例があれば紹介して情報共有している。
- ・家庭で子どもたちの様子を見ているが、オンラインでの課題の提出がギリギリになっている。締め切りが深夜12時なのはなぜか？
- ・大学の場合は、自己管理として提出の締め切りを徹底している。その日のうちということで12時は妥当ではないか。
- ・大学では ChatGPT を学生がアカウントを使って活用するようにしている。ChatGPT が出した答えを一度自分の手で書いたうえで検証して(友人の答えと自身の答えを比較したりして)活用することが大事。自分の手で書いて、声を出し

て振り返りながらキーボードで打ち込み、定着、内在化する仕組みが必要。書くという作業とタブレットの活用の両面で思考ツールとして利用していく。

○今後の門真なみはや高校が進む方向性について

- ・今後も日本語サポートの必要な生徒を育ててほしい。
- ・インターネットが普及して、知識注入型の教育の価値がなくなっている。Chat GPT も出て、今後どんな力をつけさせていくのか、深める力や協働してなしとげる力が必要。学校の授業も穴埋めドリルから脱脚する必要があるのでは。
- ・教員が子どもに寄り添ってくれている姿勢が親としてうれしい。相談しやすい先生方が卒業するまで生徒に寄り添ってくれているので、保護者としても本校を友人などにすすめることができる。今後、日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒の枠を広げることも大事ではないか。
- ・『明日のなみはやを考える会』では、今の日本社会における多様性を考えてほしい。仕事柄、外国人が増えているという実感があるが、権利・保障の面は弱くなっている。
- ・多様な価値観を認めて皆が住みやすい社会を作ってもらいたい。社会の中で生きていく、社会の中で多様性を認めていくという考え方、社会をスムーズに運営していく中で、多様性を認めていく姿勢が大事。
- ・これから必要な力は、多文化マネジメント能力である。人を束ねて、言葉でコミュニティを作り、行動して結果を出していく。その原動力は1人1人の夢である。その1人1人の夢を育てることが必要である。
- ・総合的に探究し発信していくことで、学校の価値を高めていくことが実現できるのではないかと期待している。